

サードエイジの 市民参加 ～高齢期の生活と健康の未来～

第21回厚生政策セミナー
将来世代に引き継ぐ社会と社会保障制度を考える
2016年12月1日（木）
於：日比谷コンベンションホール

神戸大学大学院人間発達環境学研究科
片桐 恵子

サードエイジとは

	20歳頃		60歳頃	80歳頃
分類	ファースト エイジ	セカンド エイジ	サード エイジ	フォース エイジ
属性	子ども・学生	社会人	現役時代後半 から引退後	引退後
特徴			心身は健康	心身機能が低 下し始めてか ら死亡するま で

20年後の変化

- 生産人口の減少

➡ 経済的に成長が見込めない

- 大都市への人口集中

➡ 地域社会での支えあいが困難に

- 単身世帯の増加

➡ 家族での支えあいが困難に

➡ **強い絆(血縁・地縁)の弱体化**

良くないことばかり…？

- 潜在能力の高い高齢者の登場

2035年

60歳 今の40歳 バブル世代

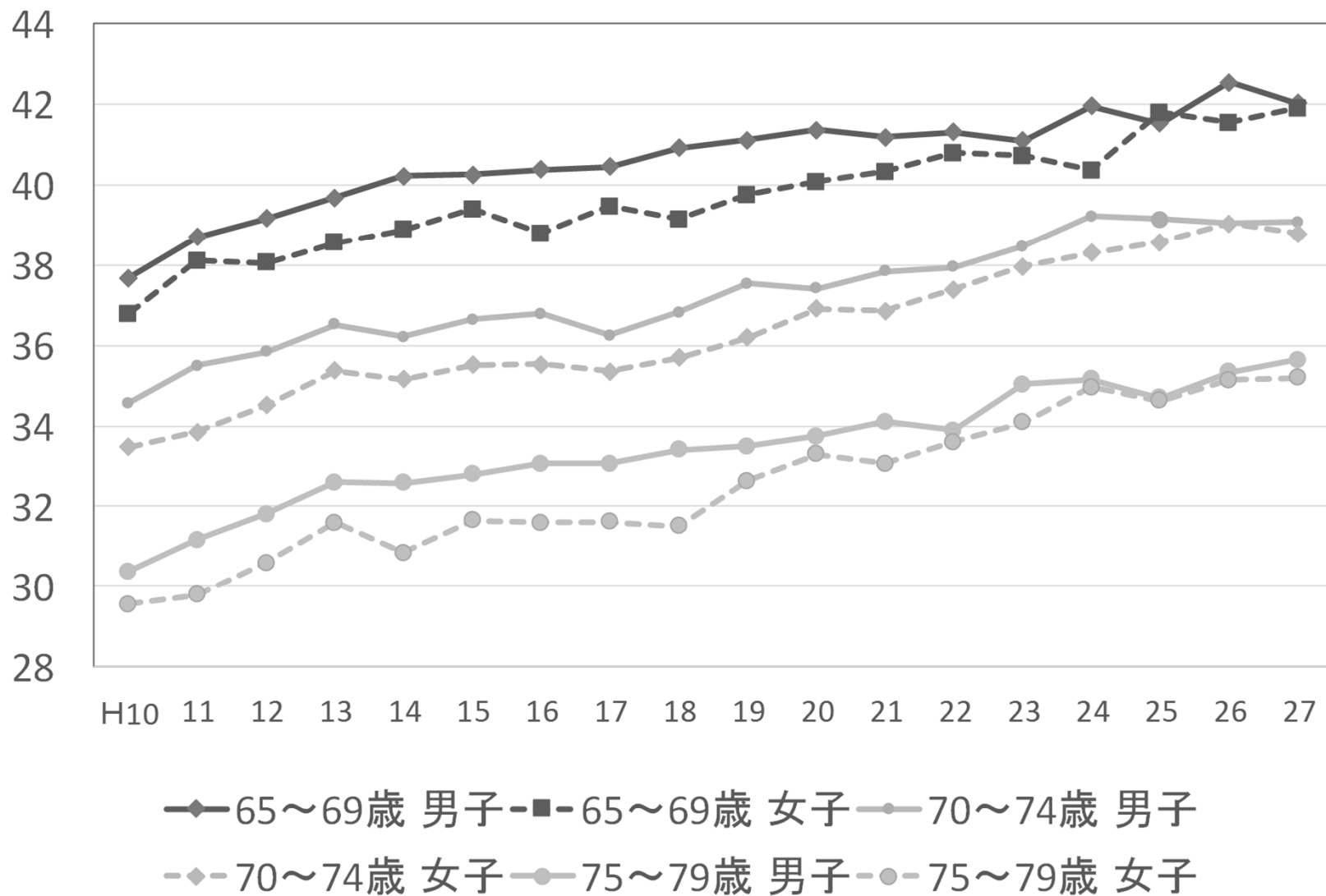
70歳 今の50歳 男女雇用機会均等法世代

- 今とは違う高齢者

- 体力の若返り
- 就労期間の長期化
- 女性就労者の増加

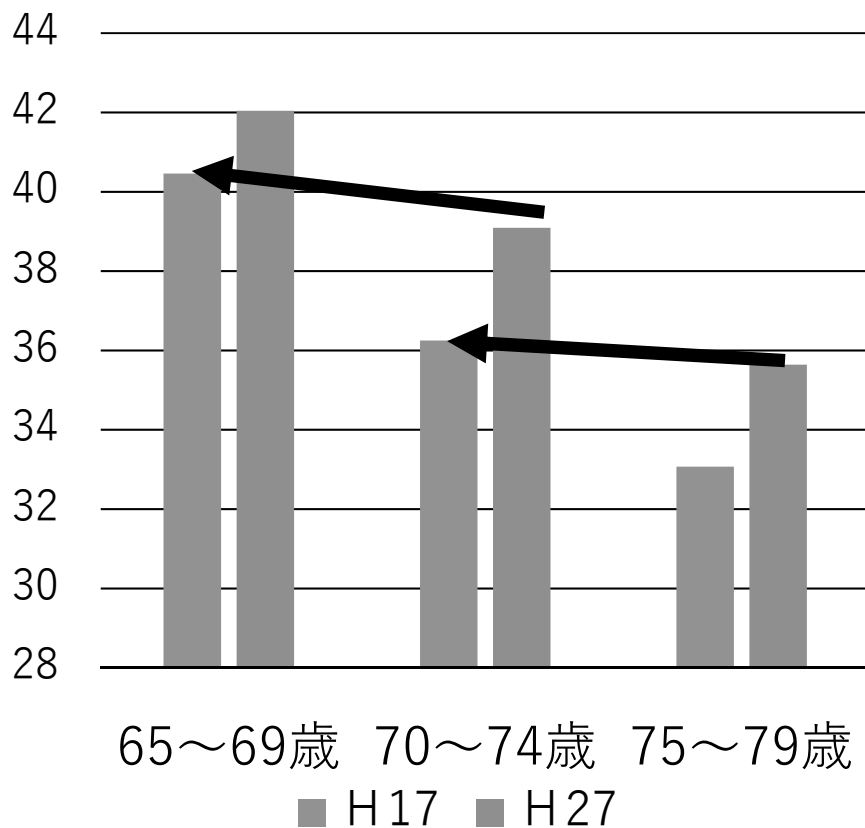
上昇する体力

高齢者体力テスト結果の年次推移(文部科学省, 2015)

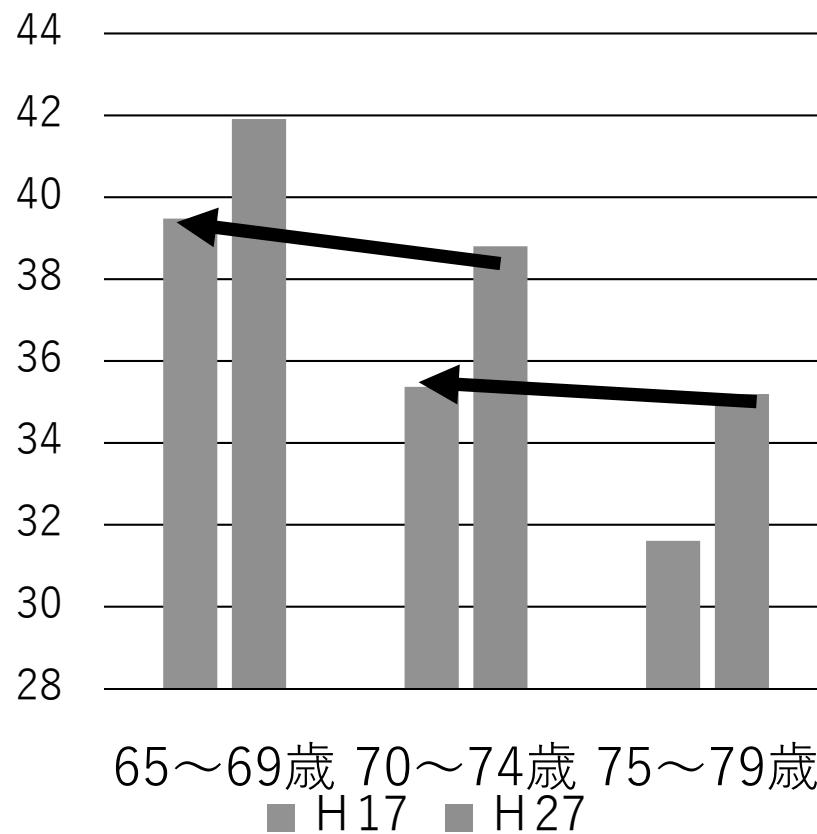


若返った高齢者

男性



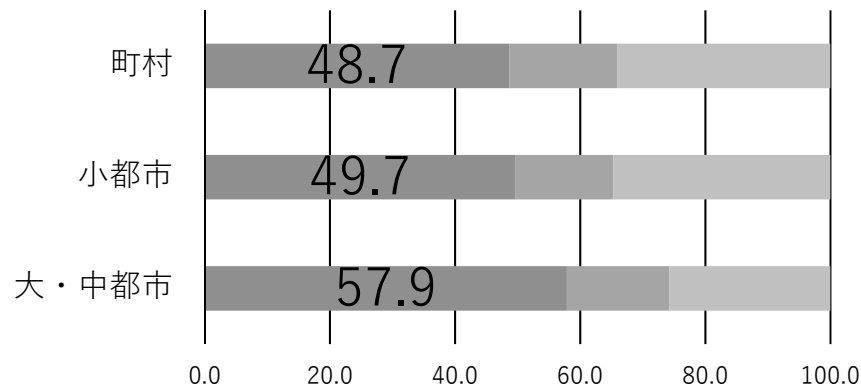
女性



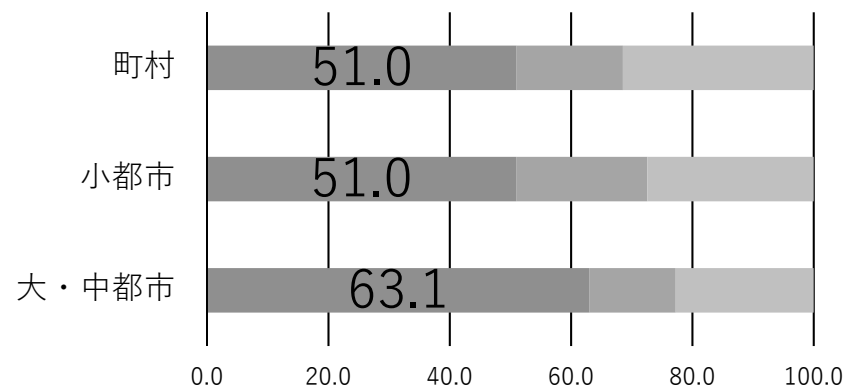
(文部科学省, 2015より作成)

健康な大都会居住者

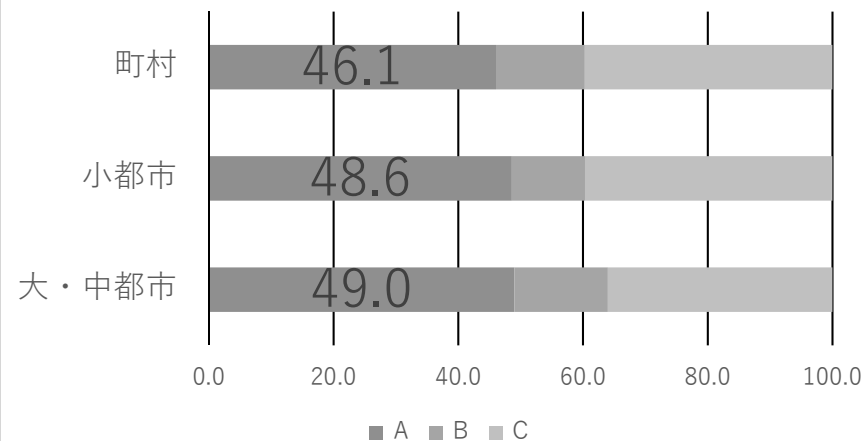
男性 55-59歳



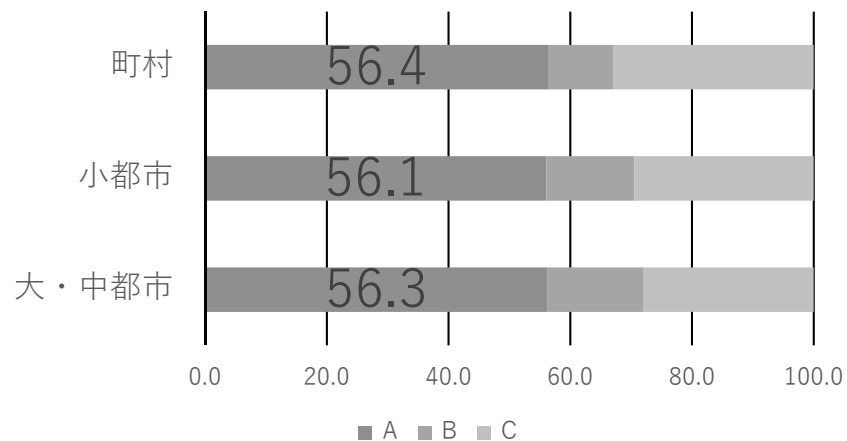
女性 55-59歳



男性 60-64歳



女性 60-64歳

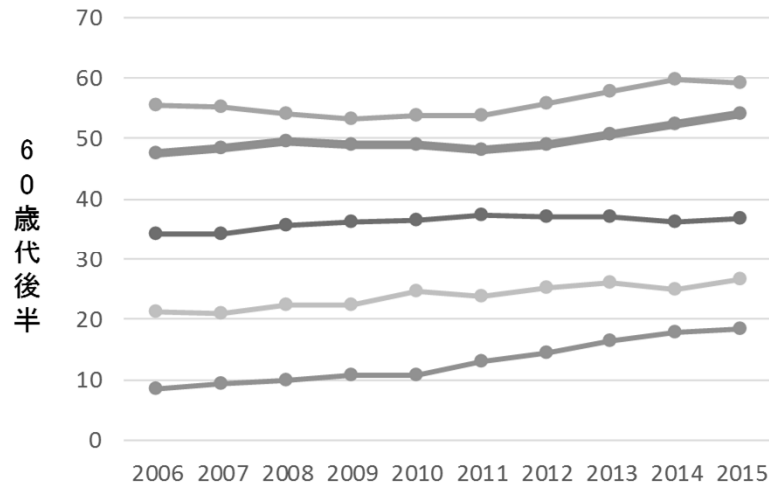
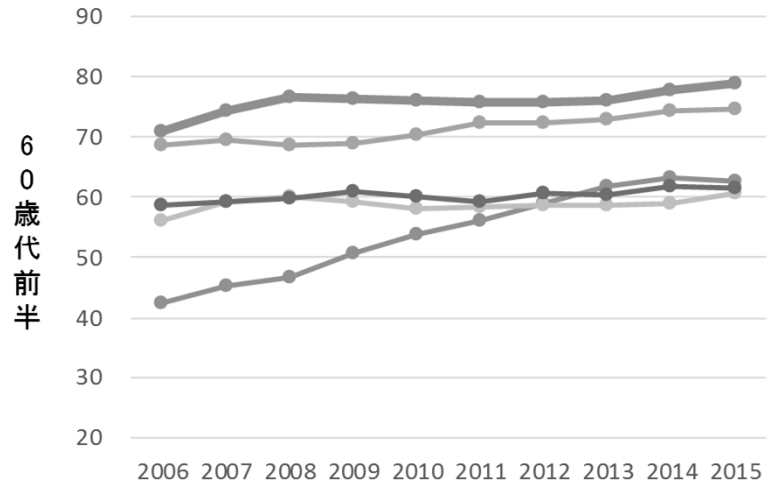


(注) A : 体力年齢 < 暦年齢 B : 体力年齢 = 暦年齢 C : 体力年齢 > 暦年齢

(文部科学省, 2015より作成)

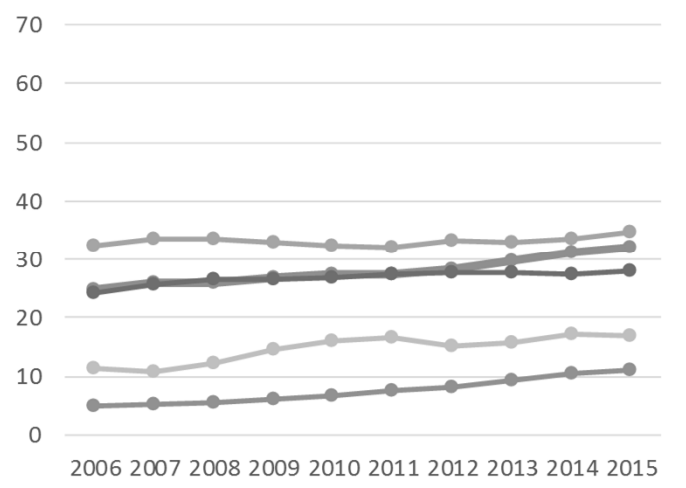
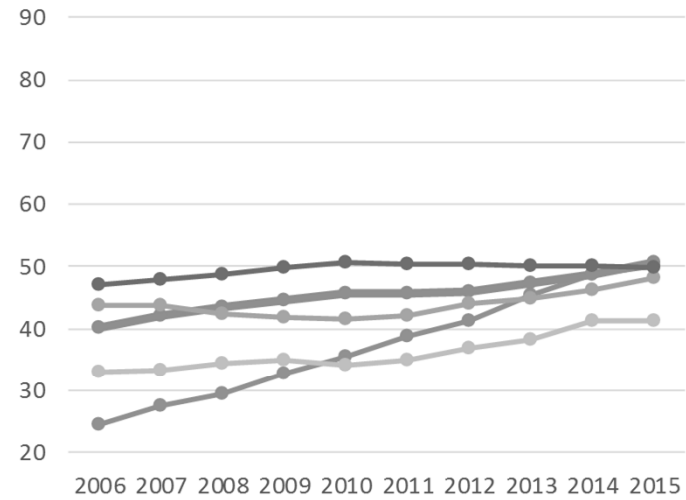
高齢労働者の増加

男性



- 男性ドイツ
- 男性日本
- 男性韓国
- 男性イギリス
- 男性アメリカ

女性



- 女性ドイツ
- 女性日本
- 女性韓国
- 女性イギリス
- 女性アメリカ

(OECD.statより作成)

高齢者就労の様々な効果

- 健康維持

仕事の複雑性は認知能力にプラス
認知予備力を高める

- 役割の維持

- 仕事関連ネットワークの維持

➡ 孤独を癒す

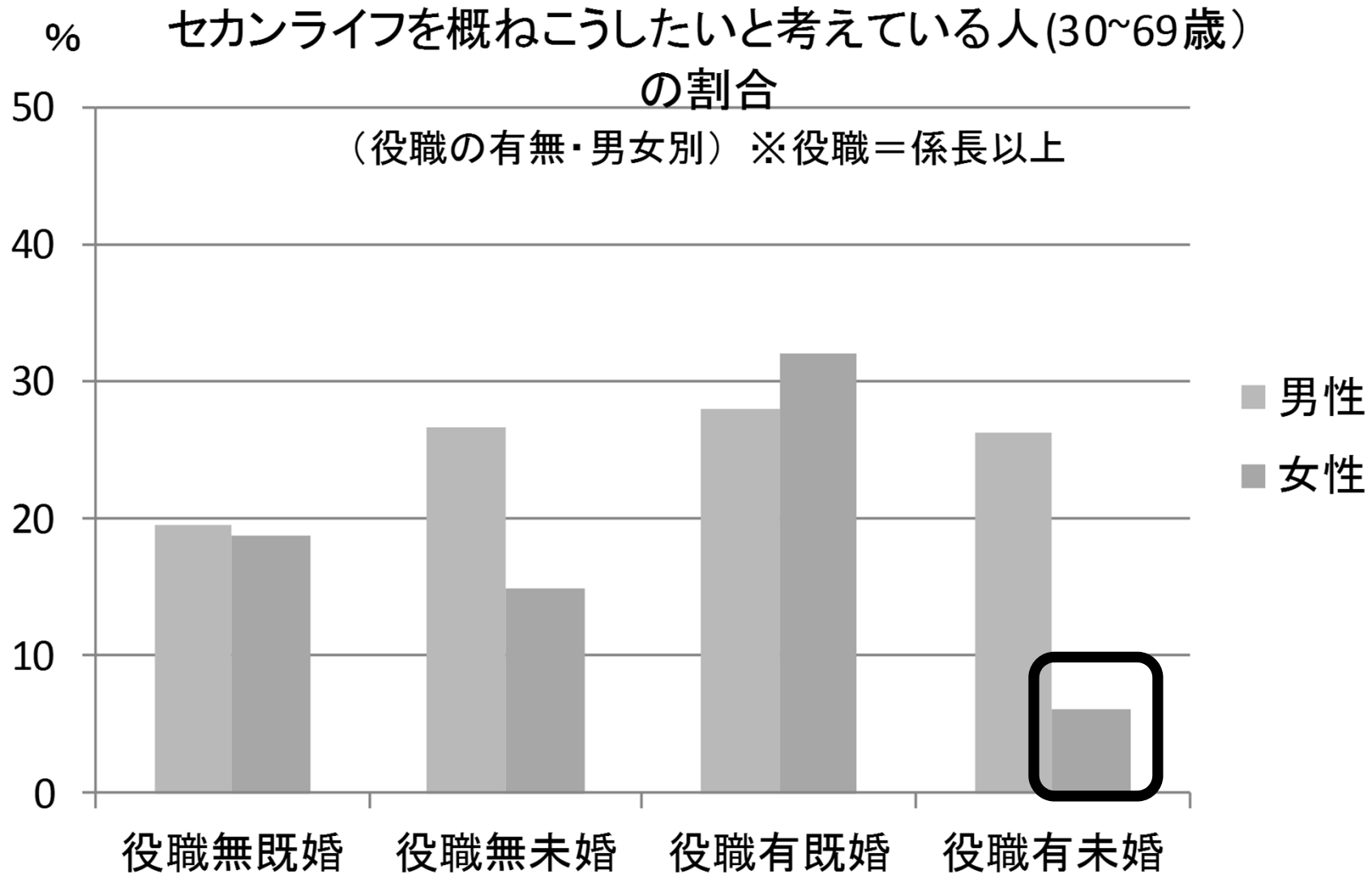
フルタイム就労の女性

- 仕事、育児、介護で男性以上に時間がない生活をこなしてきた：マルチタスク
- コミュニケーション能力高い
- 地域社会と無縁

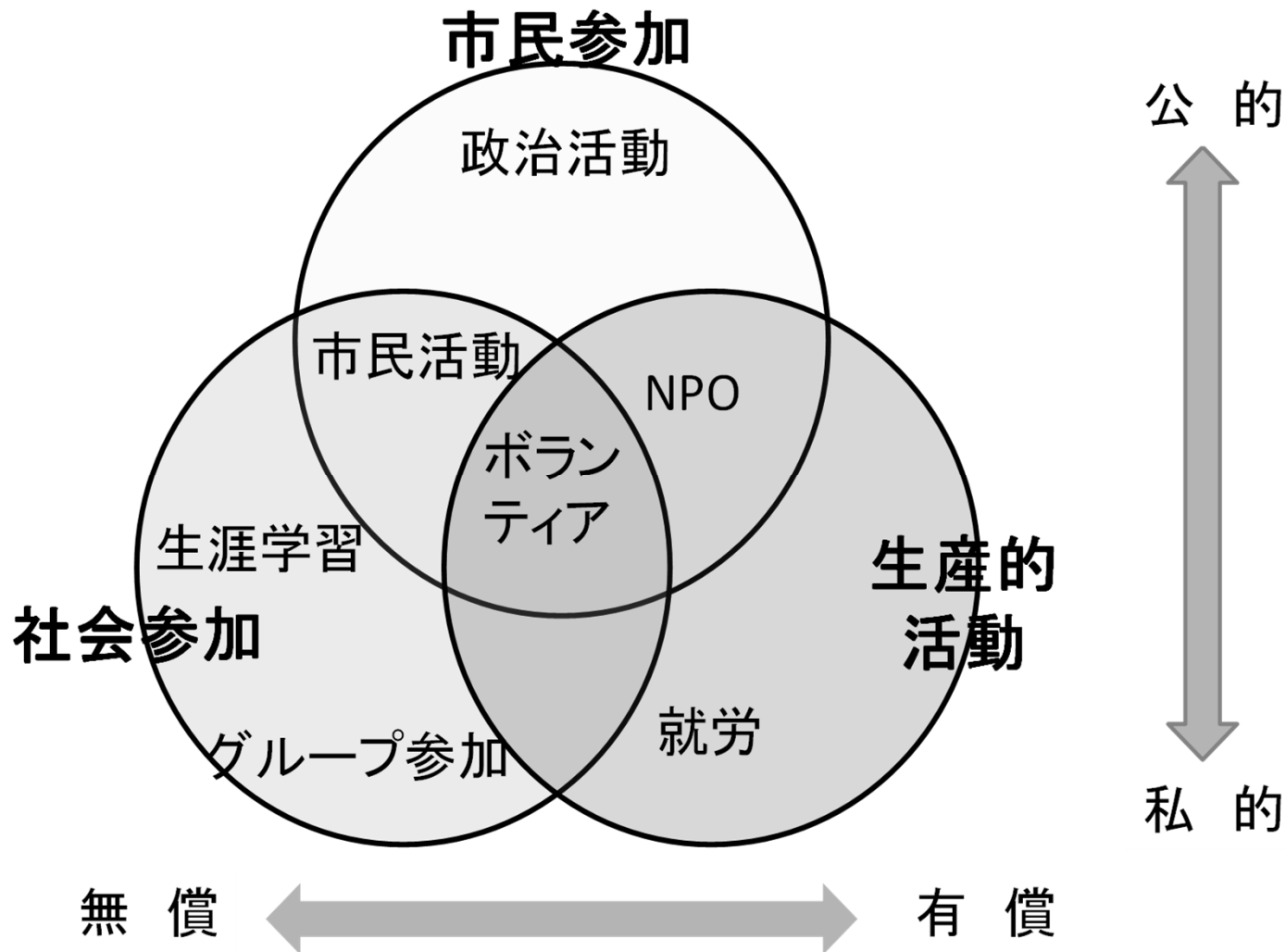
彼女たちの定年後の生活は？

退職後の生活への準備

(遠座&片桐, 2016)



サードエイジの選択 (片桐,2013)



市民参加

- 個人が投票やコミュニティ・グループへの参加やボランティアを通じて、コミュニティの生活に活発に参加するプロセス
(ハーバード大学公衆衛生とメットライフ, 2004)
- 社会老年学では、ボランティアと政治参加
(Martinson& Minkler, 2006)

生産的活動

有償か無償かにかかわらず、社会に役に立つ財を作り出す活動

社会参加

通常グループ参加

必要なこと(個人)

【就労】

- ・ Employabilityの向上
- ・ 仕事の仕方の違い：後輩を育てる
→ 世代性の発達

【市民参加】

- ・ 仕事のスキルを活かす
- ・ 社会のため←自分も住みやすい社会

【生涯学習】

- ・ 学び続けることの有用性

自己決定

主体的な関係の選択(選択縁の重要性)

生産性重視の価値観からの開放

必要なこと(社会)

【就労】

- エイジズムの克服
- 高齢労働者の能力を生かした仕事・役割の創出
- 企業とシニアの希望をマッチングする機関

【市民参加】

- 日本に相応しいボランティア活動/形態の創出
- 政治的関心を高める

【生涯学習】

- Age-friendly University

実現されうる社会

- サードエイジにおける人間発達

➡ **より成熟した人間へ**

- 現在と異なるサードエイジがBETTERな社会の実現に力を尽くす社会

Base by 現役世代

Better by サードエイジ & 多世代